

令和3年度 授業改善推進プラン

学校名 西東京市立田無小学校

校長名 小林 宏

1 調査結果を踏まえた本校の状況

国語

●「知識・技能」においては、3、4年生で学習する「主語と述語の関係」や「修飾語と被修飾語の関係」を捉えることに課題がある。3、4年生の指導事項には、他にも「指示する語句や接続する語句の役割の理解」があり、いずれも文や文章の内容を確実に理解するために必要な知識である。これらを身に付けるためには、くり返しドリル学習をすること、また文章を読む中で、常に「だれが、なにを、どのように、どのくらい、どうした」ということを問い返す学習をしていくことが必要である。

●「思考力・判断力・表現力等」においては、「話すこと、聞くこと」の領域で正答率が高かった。特に、「目的や意図に応じ資料を使って話すことができる」、「資料を用いた目的を理解する」という問題では、多くの児童が、選択肢の中から該当しない答えを外すことができた。

一方、「読むこと」の領域では、課題が見られた。特に「文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付け、その内容をまとめる」、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」等の記述式の問題において課題があった。また、「書くこと」の領域でも、「目的に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」という記述式の問題に対して課題があった。これらに共通するのは、「条件を付けて記述させる問題」であることだ。いずれの問題も「字数制限」があり、おおよそ50～100字となっている。また、「文章中の言葉や文を取り上げて書く」、「中心となる語や文を見付けて書く」、「理由を明確にして書く」などの条件があった。

このことから、思考力を付けるために、言葉や文、段落、図表等を「関係づける」「比較する」「分類・整理する」など考えるための視点を示すこと、判断力を付けるために、文章を読ませる、書かせるときに「目的や見通し」を意識させること、表現力を付けるために「表現するためのスキル」を身に付けさせることが必要であることが分かった。これらを意識して具体的な授業を考えていくようにする。特に、「字数制限の中で、条件を捉えた内容を書く」という学習を積み重ねる必要がある。

算数

●総合的に理解が定着していた領域は「変化と関係」と「データの活用」であった。特に「データの活用」においては、棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ったり、集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断したりすることにおいて、正答率が高かった。

一方、「図形」の領域においては、正答率が下がっている。特に、図形の見方を働かせて三角形や平行四辺形の底辺と高さの関係を捉え、面積を求めるといった問題では課題があった。このことから、授業ではいろいろな図形をくり返し描くことで、その形をイメージできるようにし、辺・高さ・角度などの構成要素や性質などを体験的に学ぶ必要があるといえる。

「数と計算」の領域では、4年生で学習する「場面から数量の関係を捉えて、等分除の式に表し計算する」、「基準量を1としたとき、比較量が小数になることを説明する」という問題に課題があった。このことから、中学年では、数量の関係を数直線や図に表して考えたり、単位量に着目して考えたりする算数的活動に取り組みながら、理解を深めていく必要がある。

2 教員組織等の状況

臨時的任用教員を含め、39名の教員の平均年齢38歳、臨時的任用教員が3名、初任者3名、本校が初任の教員が5名である。東京教師道場、教育研究員、都の研究推進団体等での研究歴のある教員も複数名おり、自主的に授業公開をおこない、全体の授業力向上に努める教員もいる。

特別支援学級設置校である利点を生かし、特別支援教育の手法(ユニバーサルデザインの手法を取り入れた授業づくり)を活用した授業改善にも努めている。

3 地域の状況

学校教育に対して協力的な保護者が多い。PTAやおやじの会の活動もあり、学校行事の際は積極的に協力する姿勢がある。また、商店主や農家の方など、個々の方々からの協力は多く得ることができている。

4 前年度までに行った学力向上に係る取組を踏まえた本校の状況

前年度は「自分の思いを主体的に伝え合える児童の育成」を研究主題に掲げ、授業改善に取り組んできた。新学習指導要領の全面実施の年度であったが、コロナ禍の影響もあり、「主体的・対話的で深い学び」の取組に関しては、感染拡大防止の観点から制約のある中での活動であった。そのような中、生活時程を見直し、毎日「朝学習」の時間を設定し、漢字や計算などの基礎的学習内容の定着を図ったり、朝読書の励行を推進したりするなどの取組を行った。

5 本校で取り組む学力向上策

- これまでの校内研究で得た成果を踏まえ、各教科等において、児童が自ら学習のめあてや見通しをもち、解決するための思考を促す発問をすることを通して、基礎・基本の定着を図る。
- 学習指導要領の趣旨の理解と「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組む。また、各教科等の特性を踏まえた「見方・考え方」についての共通理解を図り、実践に結び付ける。
- 一人一台のタブレットを効果的に活用し、主体的に学ぶ児童を育てる。
 - ・動画や音声を使って学習への興味・関心をもたせたる。
 - ・個別の学習進度や習熟度に沿って学習する。
 - ・学習ログを残して学習状況分析などに利用する。
 - ・学校での学習と家庭学習とをつなげて学習効果の向上を図る。
 - ・Meet機能を使い、登校していない児童への課題提供を行う。
- 毎時間の授業の中で、育てる力を明確にした言語活動を充実させるとともに、並行読書等の読書活動を通して思考力や表現力の向上に努める。
- 特別支援教育の手法(授業のユニバーサルデザイン)を活用した学習活動(学習の見通し、発問の精選、教室環境の整備等)を展開する。
- 業務の見直しや学校行事を各教科の指導内容と関連付けて精選することで、教員の授業研究時間を確保する。